



2015年度(平成28年3月期) 決算説明会

エーザイ株式会社
2016年5月13日

将来見通しに関する注意事項



- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。

2015年度 業績のポイント

グローバルブランド*1の育成、中国・アジアの拡大

グローバルブランド合計 売上収益:636億円(前期比140%)
 売上収益 中国:493億円(前期比120%)、アジア:340億円(前期比110%)

イノベーションを連打できる事業への選択と集中

<生産体制の刷新 -物量ベースからの脱却->

- 2015年8月 米国ノースカロライナ工場を Biogen社へ譲渡
- 2016年4月 医薬品製造・販売事業 サンノーバ(株)をアルフレッサホールディングス(株)へ譲渡

<事業ポートフォリオの転換>

- 2015年12月 診断薬事業 エーディア(株)を積水化学工業(株)へ譲渡
- 2016年2月 食品・化学事業 エーザイフード・ケミカル(株)を三菱化学フーズ(株)へ譲渡
- 2016年3月 AkaRx社をPBMキャピタルグループに譲渡
- 2016年4月 エーザイの消化器疾患領域と味の素製薬(株)を統合し、EAファーマ(株)を設立

領域集中戦略の加速によるパイプラインの進展

- | | | |
|-----------|---|--|
| ➤ Halaven | 軟部肉腫*2 | 米国(2016年1月)・日本(2016年2月)・欧州(2016年5月)で承認取得 |
| ➤ LENVIMA | 甲状腺がん
腎細胞がん2ndライン*3 | 日米欧で上市達成(米国:2015年2月、日本:2015年5月、欧州:2015年6月)
米国(2015年11月)、欧州(2016年1月)にて申請達成 |
| ➤ Fycompa | 肝細胞がん1stライン
欧米(2015年6月)
日本*5(2016年3月) | 米国PDUFA*4アクションデート:2016年5月16日
フェーズIII試験の患者様登録完了を達成(2015年7月)、2016年度申請予定
全般てんかんの強直間代発作の併用療法の適応拡大を達成 |
| ➤ E2609 | 早期AD*6 | 部分発作および強直間代発作に対する併用療法の適応で承認取得 |
| ➤ BAN2401 | 早期AD*6 | フェーズI・II試験のデータに基づいて最適用量を見出した
フェーズII試験で650例の中間解析を実施
IMC*7の推奨により700例に向けて試験を継続中 |

*1 Halaven、LENVIMA、Fycompa、BELVIQ *2 米国・欧州での適応症:脂肪肉腫、日本での適応症:悪性軟部肉腫 *3 エベロリムスとの併用 *4 Prescription Drug User Fee Act

*5 日本での製品名「フィコンバ」 *6 Prodromal AD (Alzheimer's disease), Mild Cognitive Impairment due to AD等 *7 Independent Monitoring Committee 独立モニタリングコミッティー

2015年度 連結業績(IFRS)



(億円、%)

	2014年度		2015年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上収益	5,485	100.0	5,479	100.0	100
売上原価	1,936	35.3	1,945	35.5	100
売上総利益	3,549	64.7	3,535	64.5	100
研究開発費	1,319	24.1	1,223	22.3	93
販売管理費	1,945	35.5	1,928	35.2	99
その他の損益	△1	△0.0	136	2.5	
営業利益	283	5.2	519	9.5	183
当期利益	435	7.9	550	10.0	127
ROE(%)	7.7		9.4		
配当金(円)	150		150		

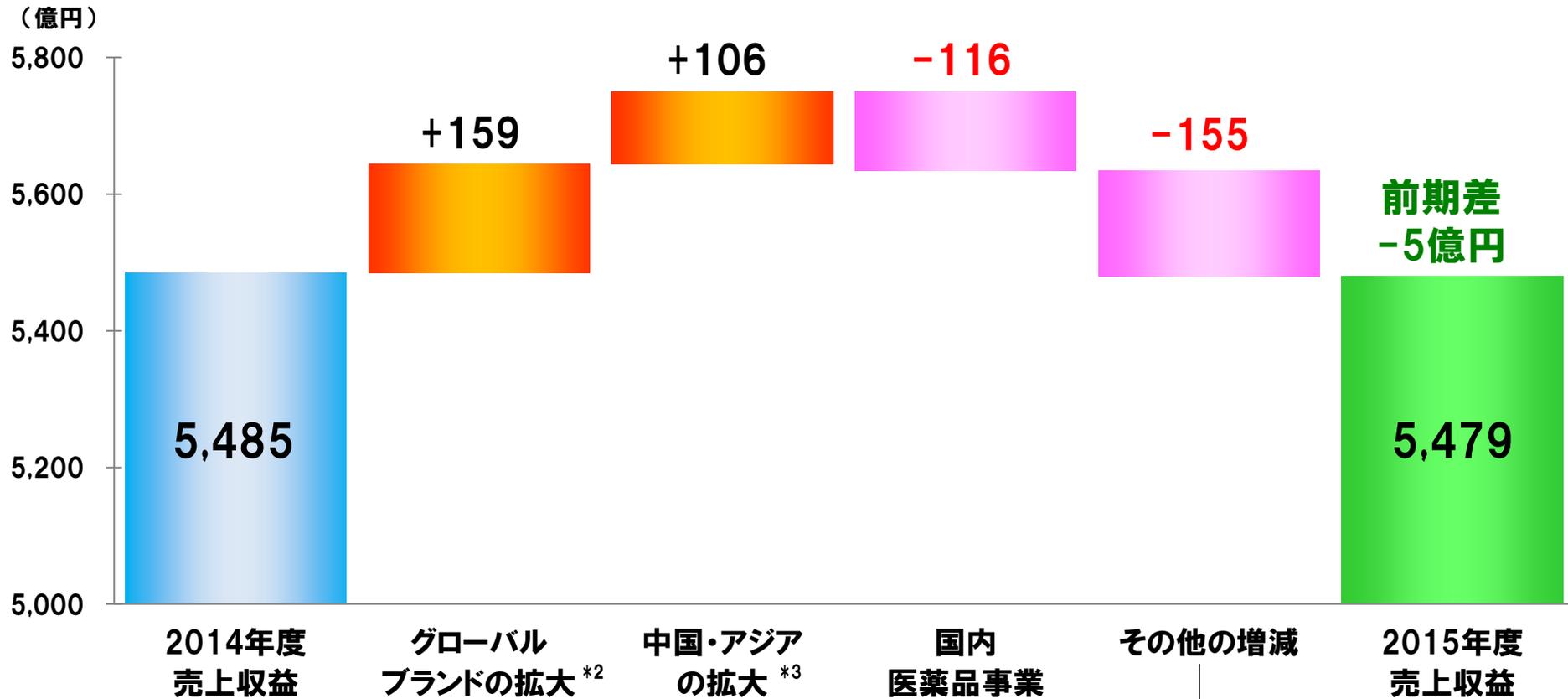
本業における成長回帰の年

2015年度期中平均レート

米ドル: 120.14円(前期変動率+9.3%)、ユーロ: 132.57円(同△4.5%)、英ポンド: 181.30円(同+2.6%)、人民元: 18.85円(同+6.3%)

売上収益の増減要因分析

グローバルブランドが拡大、中国・アジア*¹も着実に伸長



<主な減少要因>

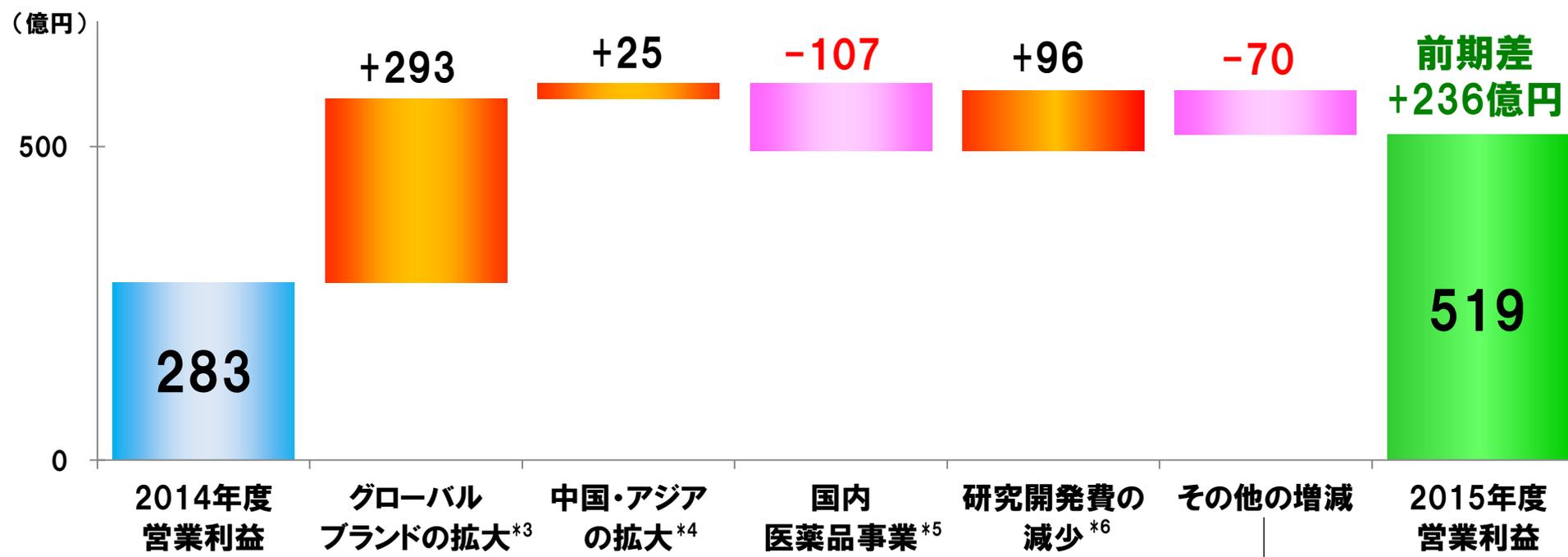
- ◆ 2014年度2Q
ゾネグラン米国権利譲渡
E3710 ゼリア新薬とライセンス契約
- ◆ 2014年度4Q
Epizyme, Inc. 戦略提携スコープ変更に伴う
マイルストーンペイメント受領

* 増減要因の数値は概数

*¹ 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等 *² 国内医薬品事業の実績は除く *³ グローバルブランドの実績は除く

営業利益の増減要因分析

グローバルブランド、中国・アジア*1の拡大に加え、戦略的オプション*2を実行



- <主な増加要因>
- ◆ 戦略的オプション*2の実行
- <主な減少要因>
- ◆ 2014年度2Q ソネグラン米国権利譲渡 E3710 ゼリア新薬とライセンス契約
 - ◆ 2014年度4Q Epizyme, Inc. 戦略提携スコープ変更に伴うマイルストーンペイメント受領
 - ◆ 為替差損

* 増減要因の数値は概数

*1 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等

*2 主な内訳：米国構造改革(1Q)、米国ノースカロライナ工場の譲渡(2Q)、診断薬事業エーディア(株)の譲渡(3Q)、食品・化学事業エーザイフード・ケミカル(株)の譲渡(4Q)、AkaRx社の譲渡(4Q)

*3 Halaven・LENVIMA・Fycompa・BELVIQの営業利益を表示、国内医薬品事業の実績は除く *4 セグメント利益を表示、グローバルブランドの実績は除く

*5 セグメント利益を表示 *6 Purdue Pharma社とLemborexantに関する共同開発・共同販促契約(2Q)に伴う研究開発費の減少を含む

戦略意思1

認知症領域への取り組みの加速

戦略意思2

ニューロロジー、オンコロジー領域の
パイプラインの進展(Flagship 13品目)

戦略意思3

全リージョンでの成長

E2609, BAN2401 開発加速に向けた取り組み



E2609

- Icelandic Genetic Researchにより次世代アルツハイマー型認知症治療薬の作用機序として、BACE阻害の重要性が確認されている*1
- フェーズ I・II 試験の安全性、PK/PDデータの解析により、最適用量を見出した
これらの結果とフェーズ III 試験のプロトコル概要の協議のため、End of Phase II meetingをFDAに申し込んだ
- **2016年度中のフェーズ III 試験開始に向けた準備に着手した**

BAN2401

- 2016年3月に201試験で650例の中間解析を迎え、IMC*2は試験継続を推奨した
- 次回の中間解析は700例で2016年6月を予定している
- フェーズ II 試験結果がポジティブな場合、将来のピボタル試験にどのように活用するかについて、当局と協議している

**フェーズ III 試験の数とサイズを最小限に抑えるため、
コンビネーションの可能性を含めて全てのアセットについて効率化された開発シナリオを検討中**

*1 参考文献

1) Jonsson, T. et al. (2012) A mutation in APP protects against Alzheimer's disease and age-related cognitive decline. Nature 488: 96-99

2) Maloney, J. A. et al (2014) Molecular mechanisms of Alzheimer disease protection by the A673T allele of amyloid precursor protein. J Biol Chem 289: 30990-31000

*2 Independent Monitoring Committee 独立モニタリングコミッティー

Lemborexant オレキシン受容体拮抗剤 新しい不眠症治療剤の潜在価値の最大化



新しい不眠症治療剤への高いニーズ

高齢者における睡眠障害

現在主流となっているGABA*¹作動性の不眠症治療剤は、睡眠の質への影響*²や記憶障害や中途覚醒、夜間のふらつき、転倒等の副作用があるため、高齢者等に使いにくい場合がある

アルツハイマー型認知症に伴う睡眠障害

- ✓ 睡眠の断片化
- ✓ 夜間睡眠時間の減少
- ✓ 夜間徘徊
- ✓ 日中の眠気

睡眠障害はアルツハイマー型認知症患者様によくみられる臨床的問題であり、患者様の認知機能の低下や介護者の負担の増加につながる可能性がある

患者様ニーズの充足をめざした Lemborexantの開発状況

不眠症に関するフェーズIII 試験を2016年1Q開始予定

既存の不眠症治療剤との差別化を企図し、登録患者様のうち40%は高齢(65歳以上)の患者様を予定

新規適応症として 認知症に伴う睡眠覚醒断片化 における開発に着手

フェーズII試験2016年度開始予定

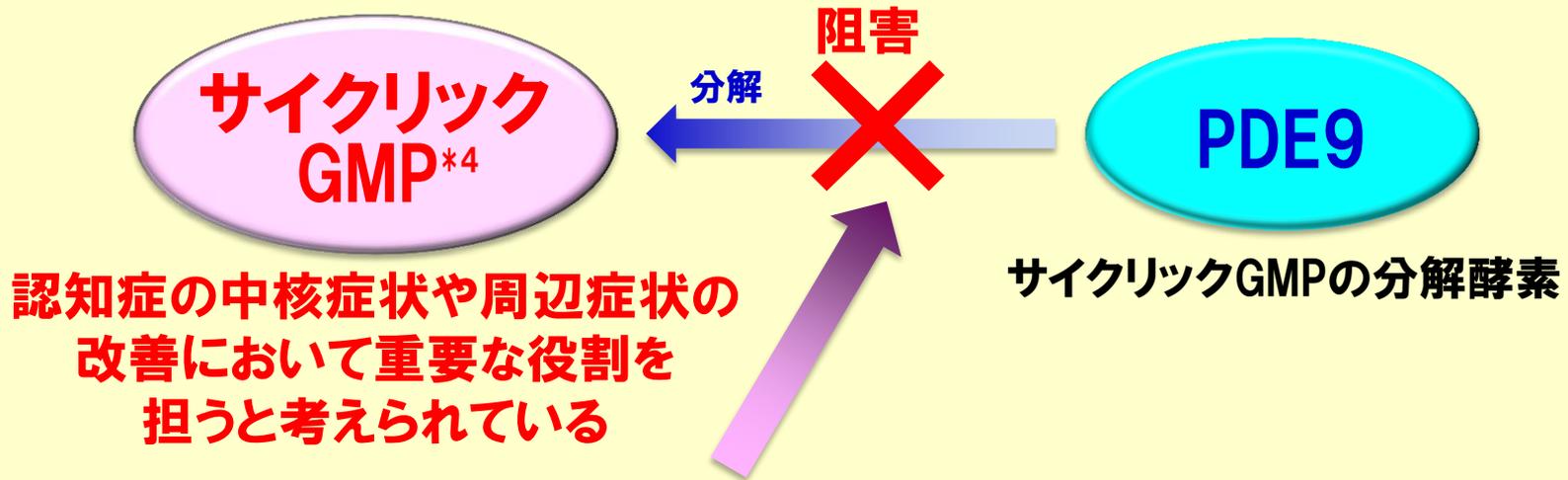
*1 γ-アミノ酪酸

*2 睡眠にはレム睡眠とノンレム睡眠という2つのフェーズがあり、GABA作動性の不眠症治療剤はレム睡眠の抑制作用がある

E2027 PDE9^{*1}阻害剤

認知症の中核症状^{*2}と周辺症状^{*3}の改善をめざす

E2027の作用メカニズム



E2027

フェーズ I 試験進行中

健康成人を対象としたフェーズ I 試験でE2027の投与により
脳脊髄液中のサイクリックGMPレベルが上昇することを確認
PDE9を阻害することでアルツハイマー型認知症を含む認知症の
中核症状や周辺症状の改善の可能性を追究

*1 ホスホジエステラーゼ9 *2 記憶障害、判断力の低下、見当識障害など *3 焦燥、興奮、攻撃性、精神病症状など *4 環状グアノシンーリン酸

予防、治癒、ケアの実現に向けた取り組み

次世代AD治療剤候補品

BACE阻害剤 E2609*1:フェーズII試験

抗Aβ抗体 BAN2401*1:フェーズII試験

タウを標的としたプロジェクト:前臨床

症状改善剤候補品

オレキシン受容体拮抗剤 Lemborexant*2

認知症に伴う睡眠覚醒断片化
フェーズII試験2016年度開始予定

PDE9阻害剤 E2027:フェーズI試験

安心・安全を届ける地域医療への取り組み

日本事業 認知症ソリューション事業

- 全国56ヶ所の認知症連携協定先において、地域医療の担い手(医師、薬剤師、看護師、介護福祉士、介護者・家族等)と連携し、自治体・地域住民へ認知症ソリューションを提供し、認知症と共生する社会の実現に貢献する
- スマートモバイルを活用した多職種連携システムによる「要介護度の改善」、服薬支援機器による「服薬コンプライアンス向上」、お出かけ支援ツールによる「安心・安全に外出できる社会の実現」に貢献する



難治性の乳がんと軟部肉腫の患者様を対象とした
複数の大規模試験で単剤のOS*¹延長が確認された唯一のChemotherapy

**軟部肉腫*²の適応取得を契機として
がん微小環境モジュレーターとしてのポジショニング確立をめざす**

**米国、日本： 2015年度4Q適応取得
欧州： 2016年5月2日適応取得**

中国 転移性乳がんの患者様530人を対象としたフェーズIII試験(304試験)

**対照薬であるビンレルビン投与群と比較して
主要評価項目であるPFS(無増悪生存期間)を統計学的に有意に延長**

2016年度上期中に申請予定

**免疫チェックポイント阻害剤*³との併用療法
トリプルネガティブ乳がんに対する効果の可能性を追究
フェーズIb/II試験のフェーズIIパート進行中**

腎細胞がんの適応拡大や肝細胞がんの承認申請による価値最大化

腎細胞がん 2ndライン*1

米国: PDUFA*2アクションデート 2016年5月16日

欧州: 2016年度上期中に承認取得見込み

5年生存率が低く、アンメット・メディカルニーズの高い腎細胞がんの患者様に新たな治療オプションの提供へ

肝細胞がん 1stライン

フェーズIII試験進行中、2016年度中にグローバル申請予定

免疫チェックポイント 阻害剤*3との併用

肺がん、メラノーマ、頭頸部がん、膀胱がん、腎細胞がん、子宮内膜がん

フェーズIb/II試験のフェーズIIパート進行中

- ・ 良好なコンビナビリティとクリニカルアクティビティが確認された用量を固定し、**6つのがん種全てでフェーズIIパートに移行**
- ・ フェーズIbパート結果については、主たる学会で発表見込み

胆道がん 2ndライン

フェーズII試験進行中(日本)

子宮内膜がん

フェーズIIb試験準備中

アメリカス リージョン

End to End組織の設立

ニューロロジービジネスグループ(NBG)
 オンコロジービジネスグループ(OBG)

Discovery、Clinical、Commercialが一体化したEnd to End組織による
 早期の意思決定 (**Early Decision**) と
 科学的洞察力 (**Scientific Acumen**) の醸成

タレントの強化

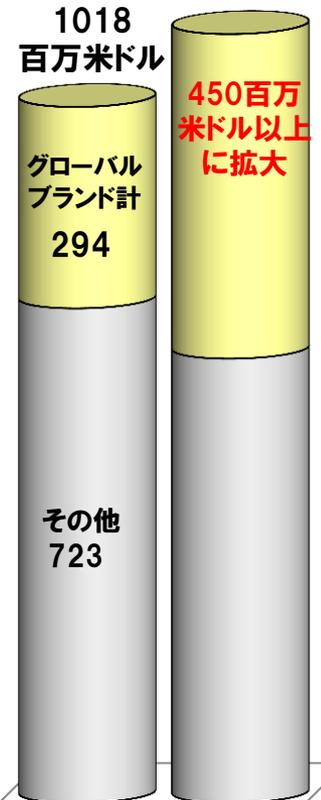
- NBG、OBGのエグゼクティブを米国に重点配置
 NBGエグゼクティブ7名のうち5名、OBGエグゼクティブ5名のうち3名を米国に配置
- アメリカスリージョン プレジデントがNBGプレジデントを兼任
 米国在籍のNBG、OBGのエグゼクティブとともに、アメリカスにおけるNBG、OBGの
 End to End組織としての機能を最大化
- 2016年4月に3名^{*1}のシニアマネジメントを採用

アメリカスリージョン マネジメント

- 地域医療にフォーカスし、医療共同体(IDN^{*2}やACO^{*3}など)へのアクセスの加速とB to B^{*4}を拡大
- 個々の医療共同体の特性、医療ニーズの変化に合わせて、研究開発グループ、
 メディカルグループ、アクセスチーム、MRが組織縦断的に連携をとり、きめ細かい対応を実現

アメリカス 売上収益
 (百万米ドル)

1124百万米ドル
 前期比110%



2015年度 実績 2016年度 見通し

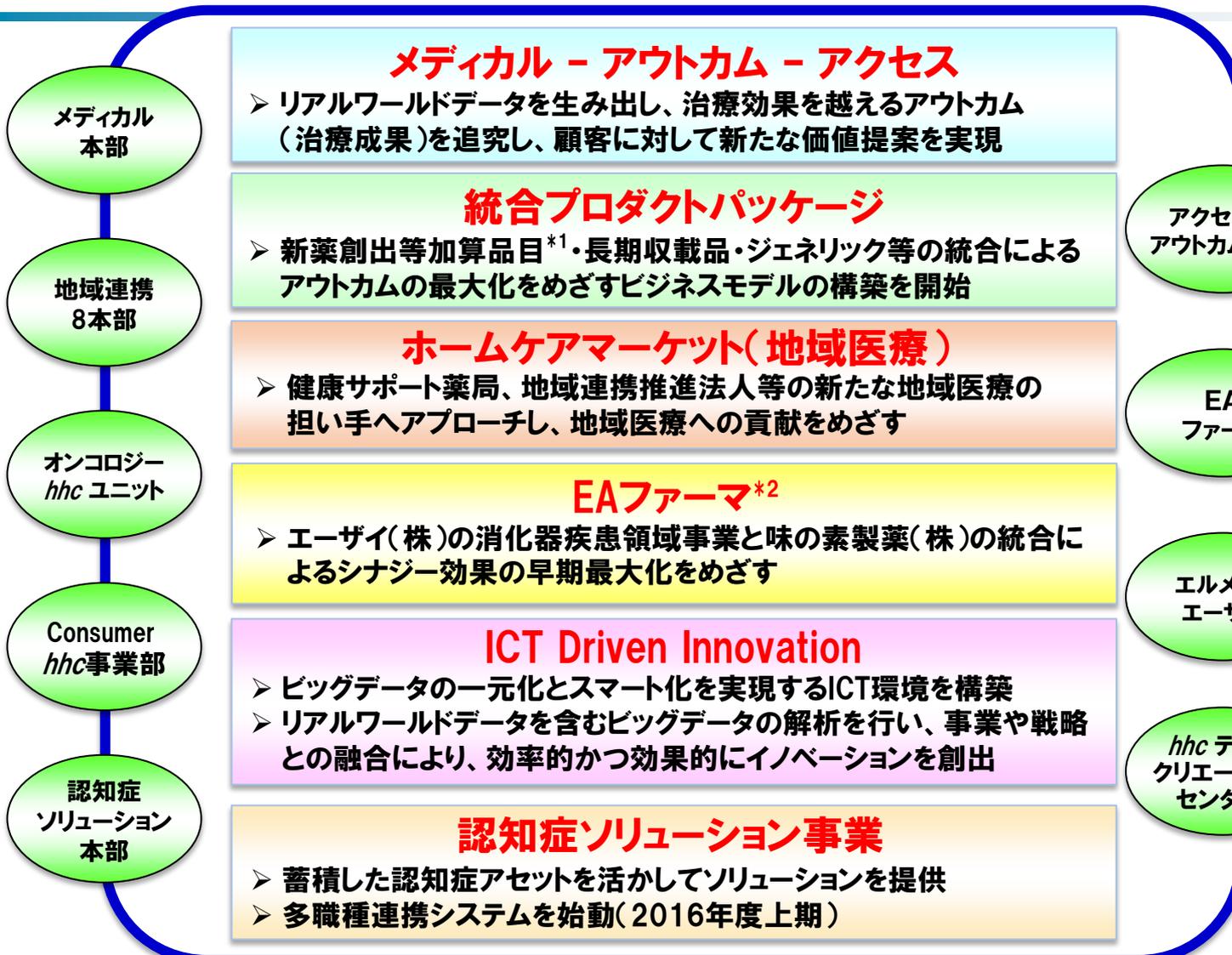
*1 NBG米国コマーシャルヘッド、NBGコマーシャルディベロップメントヘッド、OBGアメリカスメディカルアフェアーズヘッド

*2 Integrated Delivery Networks 総合医療ネットワーク

*3 Accountable Care Organization 責任ある医療組織

*4 Business to Business

日本リージョンの新たな展開



メディカル - アウトカム - アクセス
 ▶ リアルワールドデータを生み出し、治療効果を越えるアウトカム (治療成果)を追究し、顧客に対して新たな価値提案を実現

統合プロダクトパッケージ
 ▶ 新薬創出等加算品目^{*1}・長期収載品・ジェネリック等の統合によるアウトカムの最大化をめざすビジネスモデルの構築を開始

ホームケアマーケット(地域医療)
 ▶ 健康サポート薬局、地域連携推進法人等の新たな地域医療の担い手へアプローチし、地域医療への貢献をめざす

EAファーマ^{*2}
 ▶ エーザイ(株)の消化器疾患領域事業と味の素製薬(株)の統合によるシナジー効果の早期最大化をめざす

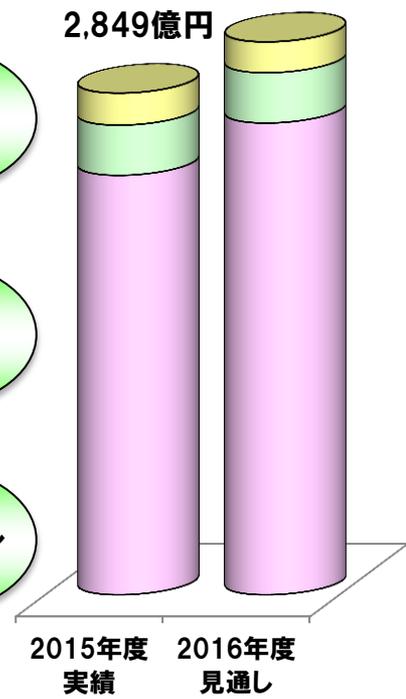
ICT Driven Innovation
 ▶ ビッグデータの一元化とスマート化を実現するICT環境を構築
 ▶ リアルワールドデータを含むビッグデータの解析を行い、事業や戦略との融合により、効率的かつ効果的にイノベーションを創出

認知症ソリューション事業
 ▶ 蓄積した認知症アセットを活かしてソリューションを提供
 ▶ 多職種連携システムを始動(2016年度上期)

日本事業 売上収益

**新薬創出等加算品目
13品目^{*1}+フィコンバ^{*3}
の拡大**

3,140億円
前期比110%



□ 一般用医薬品等
 □ エルメット エーザイ
 □ 医療用医薬品^{*4}

*1 新薬創出・適応外薬解消等促進加算を受けた品目(市場拡大再算定を受けた品目を含む):ハラヴェン、レンピマ、トレアキシム、ギリアデル、ヒュミラ、リリカ、ルネスタ、ケアラム、ホストイン、イノベロン、マクサルト、ナーブロック、リバクレオン *2 2016年4月1日発足
 *3 2016年3月28日 てんかんの部分発作および強直間代発作に対する併用療法の適応で承認取得(現在、上市準備中) *4 2015年度実績には診断薬事業、2016年度見通しにはEAファーマを含む

フラッグシップ ドラッグ 13品目の開発の進展 立地とイノベーション



● 作用機序 ● 期待される適応症

ニューロロジー: 6立地

低侵襲的な早期診断

タンパク変性 ● 神経炎症および免疫ジェネティクス

シナプス微小環境 ● ニューロン再生

新しい神経伝達経路

E2609*1 ● BACE阻害剤 ● 早期AD

BAN2401*1 ● 抗Aβプロトフィブリル抗体 ● 早期AD

Aducanumab*2 ● 抗Aβ抗体 ● 早期AD

Lemborexant ● オレキシン受容体拮抗剤 ● 不眠症、認知症に伴う睡眠覚醒断片化

E6011 ● 抗フラクタルカイン抗体 ● 関節リウマチ、クローン病

2016年度中フェーズII開始予定

次世代AMPA受容体拮抗剤 ● 複数の神経領域疾患

2017年度IND申請予定

E2027 ● PDE9阻害剤 ● 認知症

オンコロジー: 4立地

間葉系間質細胞 ● リンパ系細胞 ● がん細胞 ● 骨髄系免疫細胞 ● 血管内皮細胞

新規抗体薬 ● モルフォテックの抗体技術を活用 ● 2017年度IND申請予定

Halaven ● 乳がん、軟部肉腫 ● ペバシズマブにないMET*3誘導作用を乳がん患者様の臨床データで確認*4 ● がん微小環境モジュレーターとしてさらなる適応拡大をめざす

FGFR4阻害剤 ● 肝細胞がん ● 2016年度上期フェーズI開始予定

SF3B1モジュレーター ● 骨髄異形成症候群 ● 2016年度上期フェーズI開始予定 ● スプライシング因子に変異を有するヒト白血病移植動物モデルで抗腫瘍効果を確認*5

E7046 ● EP4受容体拮抗剤 ● 固形がん ● 単剤フェーズI進行中 ● 腫瘍関連マクロファージに対する抑制効果に基き放射線療法との併用試験を準備中

LENVIMA ● VEGF/FGFR/RETキナーゼ阻害剤 ● 甲状腺がん: 2015年グローバル上市 ● 腎細胞がん 2ndライン*6: 米国 PDUFAアクションデート 2016年5月16日 ● 欧州 2016年度上期中に承認取得見込み ● 肝細胞がん: フェーズIII進行中 ● 2016年度グローバル申請予定 ● 免疫チェックポイント阻害剤*7との併用: フェーズIb/IIのフェーズIIパート進行中 ● 胆道がん: フェーズII進行中 ● 子宮内膜がん: フェーズIIb準備中

*1 Biogen社との共同開発 *2 Biogen社が開発中(エーザイはオプション権を保有) *3 間葉上皮転換作用 *4 Ueda S et al. (2016) In vivo imaging of eribulin-induced reoxygenation in advanced breast cancer patients: a comparison to bevacizumab. Br J Cancer. 2016 May 3
*5 Lee SC et al. (2016) Modulation of splicing catalysis for therapeutic targeting of leukemia with mutations in genes encoding spliceosomal proteins. Nat Med. 2016 May 2 *6 エベロリムスとの併用 *7 抗PD-1抗体 ペムブロリスマブ

Financial Integrityをベースとした 戦略投資と安定配当の継続



戦略投資

グローバルブランドの育成
プロダクトクリエーションの加速
M&A及びパートナーシップ

価値創造を担保する
投資採択基準 VCIC^{*2}

安定配当方針

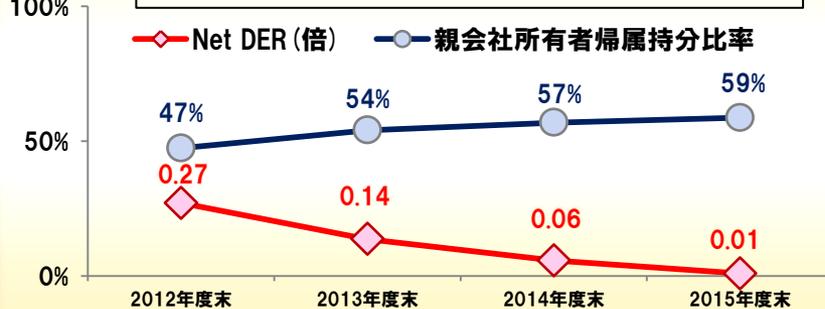
配当 150円維持
DOE^{*1} 8%レベル

Debt Capacity
2000億円レベル

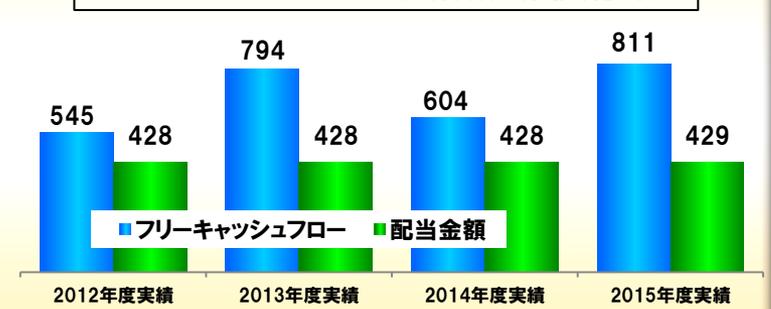
中長期的にフリーキャッシュフローの
範囲内で安定配当可能

Financial Integrity

Net DER^{*3}と親会社所有者帰属持分比率の推移



フリーキャッシュフローと配当総額の推移(億円)



Strong Balance Sheet

Ample Cash Flow

持続的な株主価値の向上

* 配当金の決定は取締役会の承認を前提とする ** 2012年度実績は日本基準 (J-GAAP)、2013年度以降は国際会計基準 (IFRS)

*1 Dividend on Equity *2 Value Creative Investment Criteria

*3 Net DER: Net Debt Equity Ratio=(有利子負債(社債及び借入金)-現金及び現金同等物-3カ月超預金等)÷親会社の所有者に帰属する持分

2016年度 連結業績見通し(IFRS)



(億円、%)

	2015年度		2016年度		
	実績	売上比	見通し	売上比	前期比
売上収益	5,479	100.0	5,800	100.0	106
売上原価	1,945	35.5	2,105	36.3	108
売上総利益	3,535	64.5	3,695	63.7	105
研究開発費	1,223	22.3	1,242	21.4	102
販売管理費	1,928	35.2	1,969	33.9	102
その他の損益	136	2.5	53	0.9	39
営業利益	519	9.5	537	9.3	103
当期利益	550	10.0	324	5.6	59
当期利益(親会社所有者帰属)	549	10.0	292	5.0	53
EPS(円)	192.2		102.1		53
ROE(%)	9.4		5.0		
DOE(%)	7.3		7.3		
配当金(円)	150		150		

全リージョン成長の年

2015年度期中平均レート 米ドル:120.14円、ユーロ:132.57円、英ポンド:181.30円、人民元:18.85円
 2016年度期中平均予想レート 米ドル:113円、ユーロ:127円、ポンド:165円、人民元:17.2円

参考資料

セグメント売上収益



(億円、%)

	2014年度		2015年度		
	売上収益	構成比	売上収益	構成比	前同比
日本*1	2,784	50.8	2,668	48.7	96
アメリカス*2	1,198	21.8	1,222	22.3	102
中国	410	7.5	493	9.0	120
アジア*3	309	5.6	340	6.2	110
EMEA*4	385	7.0	413	7.5	107
薬粧事業(日本)*5	170	3.1	181	3.3	106
医薬品事業計	5,257	95.8	5,318	97.1	101
その他事業	228	4.2	162	2.9	71
連結売上収益	5,485	100.0	5,479	100.0	100

日本、アメリカス、中国、アジア、EMEAは医薬品事業

*1 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、診断薬 *2 北米、中南米 *3 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等 *4 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

*5 一般用医薬品

セグメント利益



(億円、%)

	2014年度			2015年度			
	セグメント利益	構成比	利益率	セグメント利益	構成比	利益率	前同比
日本*1	1,224	71.6	44.0	1,116	64.5	41.8	91
アメリカス*2	149	8.7	12.4	237	13.7	19.4	159
中国	106	6.2	25.8	129	7.5	26.2	122
アジア*3	74	4.3	24.0	83	4.8	24.4	112
EMEA*4	66	3.9	17.1	103	6.0	25.0	156
薬粧事業(日本)*5	13	0.8	7.7	27	1.6	14.9	205
医薬品事業計	1,632	95.5	31.0	1,696	98.0	31.9	104
その他事業	78	4.5	34.1	35	2.0	21.4	44
セグメント利益計	1,709	100.0	31.2	1,731	100.0	31.6	101
研究開発費および 親会社の本社管理費等	△1,426			△1,362			96
子会社株式売却益*6				150			
連結営業利益	283		5.2	519		9.5	183

日本、アメリカス、中国、アジア、EMEAは医薬品事業

*1 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、診断薬 *2 北米、中南米 *3 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等 *4 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

*5 一般用医薬品 *6 第3四半期にエーディア(株)を譲渡、第4四半期にエーザイフード・ケミカル(株)を譲渡

日本医薬品事業の業績



(億円、%)

	2014年度		2015年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	2,784	100.0	2,668	100.0	96
医療用医薬品計	2,455	88.2	2,339	87.7	95
アリセプト	469	16.9	405	15.2	86
ヒュミラ	299	10.7	326	12.2	109
パリエット*1	371	13.3	304	11.4	82
リリカ*2	215	7.7	247	9.3	115
メチコパール	224	8.0	208	7.8	93
ワーファリン	86	3.1	76	2.9	88
ハラヴェン	61	2.2	68	2.5	112
アクトネル	67	2.4	64	2.4	96
ルネスタ	45	1.6	60	2.2	132
セルベックス	47	1.7	38	1.4	81
レンビマ			15	0.6	
ジェネリック医薬品	269	9.7	285	10.7	106
診断薬	60	2.1	44	1.6	74
セグメント利益*3	1,224	44.0	1,116	41.8	91

*1 ヘリコバクター・ピロリ除菌用3剤組み合わせパック製剤「ラベキュア400/800」および「ラベファインパック」の売上収益を含む *2 アライアンス収入

*3 当連結会計年度より日本における一部の費用の管理体制を見直し、販売費および一般管理費の配分方法を変更しました。

この変更に合わせて、前連結会計年度の「日本医薬品事業」及び「薬粧-日本」のセグメント利益、「親会社の本社管理費等」の数値を修正再表示しています。

アメリカス医薬品事業の業績



(億円、%)

	2014年度		2015年度			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	
売上収益	1,198	100.0	1,222	100.0	102	[93]
Aloxi	498	41.6	547	44.7	110	[100]
ハラヴェン	165	13.8	183	15.0	111	[103]
Banzel	104	8.7	132	10.8	127	[116]
レンピマ	4	0.3	88	7.2	2327	[2129]
アシフェックス	117	9.8	83	6.8	71	[65]
BELVIQ	54	4.5	44	3.6	81	[74]
Fycompa	19	1.6	38	3.1	206	[190]
セグメント利益	149	12.4	237	19.4	159	[142]

[]内は現地通貨ベース

中国、アジア医薬品事業の業績



<中国>

(億円、%)

	2014年度		2015年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	410	100.0	493	100.0	120 [113]
メチコバル	173	42.2	187	38.0	108 [102]
強力ネオミノファーゲンシー/グリチロン	69	16.8	93	18.8	134 [126]
アリセプト	47	11.5	56	11.3	118 [111]
パリエット	29	7.0	33	6.6	114 [107]
セグメント利益	106	25.8	129	26.2	122 [112]

[]内は現地通貨ベース

<アジア*>

(億円、%)

	2014年度		2015年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	309	100.0	340	100.0	110 [109]
アリセプト	94	30.3	100	29.3	107 [105]
ヒュミラ	81	26.1	90	26.4	111 [109]
パリエット	37	11.9	35	10.3	96 [95]
メチコバル	26	8.5	31	9.1	118 [117]
ハラヴェン	12	3.9	19	5.6	161 [157]
セグメント利益	74	24.0	83	24.4	112 [110]

* 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等

[]内は現地通貨ベース

EMEA医薬品事業、薬粧(一般用医薬品等)の業績



<EMEA*>

(億円、%)

	2014年度		2015年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	385	100.0	413	100.0	107 [111]
ハラヴェン	116	30.0	132	31.9	114 [118]
ゾネグラン	81	21.1	76	18.5	94 [98]
Zebinix	32	8.4	38	9.3	118 [123]
Fycompa	24	6.2	36	8.8	151 [156]
イノベロン	21	5.5	22	5.3	103 [106]
レンビマ			11	2.7	
セグメント利益	66	17.1	103	25.0	156 [173]

* 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

[]内は現地通貨ベース

<薬粧-日本>

(億円、%)

	2014年度		2015年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	170	100.0	181	100.0	106
チョコラBBグループ	103	60.8	111	61.1	107
セグメント利益*	13	7.7	27	14.9	205

* 当連結会計年度より日本における一部の費用の管理体制を見直し、販売費および一般管理費の配分方法を変更しました。

この変更に合わせて、前連結会計年度の「日本医薬品事業」及び「薬粧-日本」のセグメント利益、「親会社の本社管理費等」の数値を修正再表示しています。